

2022、5、6

直方ミニバスケットボールクラブだより

2022年度の**新チームづくり**

— (刺激しながら) “待つ” —



「位置について…」

4月2日(土)にミーティングを行い、今後の活動について話し合いを始めました。新6年生は活動期間も長く、現時点におけるバスケットのプレー技術も高いものをもっていますし、クラブのこともよく分かっていると思いますが、いざトップに立ってチームをリードするとすると、別な力が必要になります。毎年のことですが、やはり簡単なことではありません。この日は、最初の投げかけだけをして終わりました。

それから明日で1週間が経過しますが、動きはおそく、まだ1年間のスタートラインに立てていません。運動会の「かけっこ」でいう「位置について」までいっておらず、グラウンド内にじっと座って待機している状態でしょうか。順番は来ているので、自分で立ち上がってスタートラインに立たないといけないのですが…。なかなかですね。「おいで」と言って立たせることは簡単ですが、自分たちで気づいて動き始めなければ、直方ミニバスケットボールクラブの6年生は務まりません。

自分たちとしては、動いているつもりではあるのですが、今はまだこれまでの活動をコピーして動いている状態です。今年自分たちは、こんなチームをつくっていきたい。そのために、こんなふうに活動していきたい、だからこんなリーダーシップ体制をつくりたいなど、自分たちから「したいこと」が出てきて、相談をもちかけながら、自分たちで前に進めていくことが重要です。じっとしてても監督から指示が出て、それにのっとなって動けばいいという構え方だと前には進まないことを実感してもらう時間でしょう。

学校でも、これからの社会を生きる子どもたちに必要だとされているのが、「主体的で対話的な深い学び」といわれる教育です。そこで、“主体性”を育むことの重要性が常に問われています。そこで、刺激しながら子どもたちの動きを誘発する、そのために“待ち”の時間をもつことが必要とされています。家庭の子育てにも必要な要素でもあります。しかし、子育て・教育において、一番難しいのは“待つこと”といわれます。おとなからすると、“待つ”のは、じれったいし、いらいらするし、もどかしさもあります。それでも、子どもに力をつけるために、(刺激しながらの)“待ちの時間”が重要です。

これから1年間の長丁場、私がいけない時間帯もチームをリードしていかなければなりません。みんなの協力も担保されていなければうまくいきません。この時期の主体的な動きとみんなとの確認は絶対的に必要です。自分(たち)の意志で動き始めなければ、「自覚と責任」は芽生えませんから。

大事なスタート地点です。しっかり確認したいと思います。

ースタート・ラインー

「位置について、よーい」

ようやく、「位置について、よーい」の段階までできました。ミーティングを重ね、6年生が自分たちのおかれている状況に気づき、進め方について学び、待機場所から立ち上がって、スタートラインに立ったところです。

年度替わりは、活動上必要な、さまざまなことを決め直さなければならない時期です。「日常活動の準備・片付けの役割分担」「クラブ道具の役割分担」「オフィシャルの役割分担」「ユニホームの再配布」「リーダーシップ体制」「新チームのイメージ」などです。直方クラブでは、これらを、6年生のリードで確認し、確定させていかなければなりません、ここでまたもたつきました。

昨年度5年生のとき、あれだけ6年生を支え、ときには6年生にかわってクラブをリードすることもできていたので、スムーズにスタートがきれるだろうと期待していましたが、いざトップ（最上級生）に立ち、常に自分から動かなければならないとなると、なかなか…という状況です。ミーティングで6年生に言います。「それを、今までの6年生が毎日やってきてくれていたから、みんなの活動がスムーズに進んでいたんだ」と。

人まかせにしない、優先順位の高いものから進める、メモするなどして効率的な方法ですばやくする、わからないときには、自分一人で考えて時間をかけず、すぐにたずねるなど、主体的な行動、考え方、工夫等が求められます。

まだすべてを確認し終えてはいませんが、ようやく一つ一つ確認が進み始めたところです。ここまで4週間という時間を費やしています。6年生にとっては苦勞しながらの日々が続いています、ここで学びとっているものは、1年間責任もってリードするために必要なことなので、しっかり確認し、みんなの承認を得たうえで、リードを託したいと思います。

のちのち、この時間が無駄ではなかった、という直方クラブの活動をつくってくれることを期待しています。

ー新チーム・スタートー

「よーい・ドン」

ようやく新チームが新たな体制のもとでスタートすることができました。3月末から4月末まで紆余曲折を経て、約1か月をかけて結論を出しました。4月中旬にいったん、それぞれの気持ちを確認し合ったうえで、そこからさらに2週間の試し期間を経て、4月の最終練習日、29日（金）に、あらためてそれぞれの気持ちを確認し合い、今年度のリーダーシップ体制を確定しました。

毎年子どもが違い、参加条件が違い、その年、その年にあった形でチームづくりを進めていきます。形に子ども合わせるのではなく、子どもに合った形をつくるのが大切です。これまでも、さまざまな形をつくってきました。ただ、毎年共通に、大切にしていることがあります。それは、本人の意志とすべての子どもの理解です。

6年生どうして互いの気持ちを確認し合ったのち、私が入ってそれぞれの意志と役割を整理・確

認しました。今回も話し合うなかで絶対的に大切にしたいのは、本人の意志です。可能な限り本人の意志を尊重し、それを実現したいということです。その意味で、6人すべての意志を実現することができました。この間、ミーティングを重ねるなかで、自分の意志を表明するときの、それぞれの話しぶりがしっかりしてきました。自分のよさや課題とちゃんと向き合い、自分を最大限生かすことのできる役割として、自分なりの結論を出したことがよくわかり、感心しました。

本人の意志と全体の整理・確認ができたうえで、次は、全員の「了解」を得ます。「了解」の意味は、「必ず協力します」という約束だ、ということをおさえたうえで最終確認を行います。私から話し合ったことを全員に示し、その後男女分かれて6年生のリードで最終の確認を行いました。6年生から、それぞれの意志が示され、「みんなの協力が必要」「自分たちについてきてほしい」という訴えに、下級生が応えるかたちで、今年度の新チームのリーダーシップ体制が了承されました。

毎年、リーダーの確認は多少時間がかかってもいねいに確認作業を行います。ここをねがえば、1年間という長丁場、さまざまなかたちで状況の変化が起きる可能性もあるなか、直方クラブのリーダーシップをとることができません。6年生の「自覚と責任感」、下級生の「協力」、この二つが絶対的に必要ですから。

5月、スタートの号砲がなりました。スタートラインに立っていた子どもたちがいっせいに新たなスタートをきっています。子どもたちの走り（活動）への「見守り・励まし・応援」をよろしくお願いします。

.....

《指導スタッフの役割分担》

本クラブでは、子どもたちの日常活動を二人の「コーチ」にサポートしてもらっています。それぞれ仕事をもたれていますので、お二人が同時に活動に参加できるわけではありません。毎月日程調整を行いながら、空白日がないように参加してもらっています。お二人とも子どもたちへのかかわりは、どうしても断続的なものになります。子どもたちの活動のようすや状態は、学校や家での生活も含みながら日々変化します。指導には、その変化のようすや状態をふまえてあたらなければなりません。いくら私たちが正しいと思うことであっても、一度にあまりに多くのことを要求すれば子どもは受けとめられませんし、異学年（異年齢）の子どもたちがいっしょに活動していますから、すべての子に同じ要求をしても無理が生じます。それぞれの成長・発達の段階も、受けとめ幅も違います。その日あるいは前後にあった学校や家庭でのできごとによっても、子どもの状態は変化します。このようなことを常に視野に入れたうえで指導にあたらなければ、子どもたちにとっては受け入れにくいものになったり、届かないものになったりします。

そこで、全体の統括・調整の一切は、私が行うということをお二人にも確認しています。とりわけ、子どもにきびしくあたらなければならないときは、前後の状況を判断しながら私がするので、お二人には、子どもたちを元気づけたり、勇気づけたり、相談にのったり、励ましたり…そのようなプラスのかかわりをしてくれるようお願いをしています。子どもに対してきびしくあたるのは、その場で責任ある者が、子どもとの関係性をふまえて総合的な判断のもとで行わなければならない、受け入れがたいものになることがあります。学校では「先生」、家庭では「親」ということになります。

